



川越市立大東西中学校 学校だより

き ら め き

令和7年11月11日発行
第7号
川越市立大東西中学校
校長 小川 潤也

学校教育目標 『豊かな心を持ち、たくましい生徒 ～ 夢や希望をもつ生徒 ～ 』

○自ら考え、自ら学ぶ生徒 ○豊かな心を育む生徒 ○心身の健康に努める生徒

自信を付けるチャンス

校長 小川 潤也

だいたい朝晩と寒く、季節の移り変わりを感じる時期となりました。2025年もあと2か月。インフルエンザが流行している現在ですが、学校では日常の健康観察を丁寧にすると同時に換気、加湿器の使用を適宜行いながら、教育活動を行っているところです。

さて、4月から本校に勤務させていただき、学校は、多くの友達との関わりを通じて学習し、家庭ではできない多くの経験をして、「できなかった事ができるようになる」「わからなかったことがわかるようになる」場所であり、自信を付けさせる場所であると私は改めて感じています。

先日、休みの日に電車に乗る機会がありました。そこで、十数年前に、中学校に勤務した際に担任をした生徒が、私を見るなりすぐ声をかけてくれました。私は、その生徒を中1から3年間担任をしたのですが、その生徒で（ここでは、Aさんとします）印象に残っていることがあります。

1年生の1学期の係決めで、なかなか決まらない係がありました。それが、黒板係でした。仕事内容としては、授業の合間の休み時間に、毎時間黒板をきれいにするというものでした。クラスの生徒は仕事が大変そうと思ったのか、誰もやろうとはしませんでした。時間だけが過ぎていき、クラスの雰囲気重くなる中、Aさんが突然手を挙げて、「私がやります」と言って、係は全て決まりました。「やりたいわけじゃない。でも、誰かがやらないといけないでしょ」Aさんがそう私に言ったのを覚えています。はじめは、「面倒だなあ」という表情で取り組んでいました。しかし、真面目なAさんではあったので、授業の前には、黒板はとてもきれいな状態でした。授業の教科担当の先生からは「このクラスは、いつも黒板がきれいだね」と褒められていました。クラスの友達からも「黒板清掃のスペシャリスト」と言われ、係を頑張ったMVPに選ばれる存在になり、周りから認められていました。



© GSK

嫌々することになった黒板係の仕事でしたが、きれいになる達成感、先生や友達からも認められていることも手伝ってか、3年間継続して行ってくれました。

係の仕事ですから、「もっときれいに」という要求をしたこともありました。また、厳しくやり直しをさせたこともありました。しかし、私は担任として、係の仕事をするAさんを3年間、信じて、認めて、任せてきました。もちろん良いことをたくさん褒めながら。

そのAさんですが、今、都内で清掃関連の会社に勤めていると聞きました。中学時代の経験が直接関係しているかは聞いていませんが、3年間の経験が自信になっていることは間違いないと思います。「信じて」「認めて」「任せる」ことで、自信につながる。子供ですから、失敗もします。しかし、その失敗から学ぶことはとても大きいものです。ご家庭でも、どんなことでも構いません、子供が自信をつけるチャンスを与えていただけたらと思います。